



ひろしまフードフェスティバル 10/17～28 広島城址公園他

「HARU手作りアイス」に長蛇の列

80万人が広島の味覚を堪能 酪農家とともに県産生乳をPR

広島の味覚「地産地消」をテーマに県内の海や山の幸などの名産・特産品を一堂に集めた食の祭典「ひろしまフードフェスティバル」(広酪を含む40会員)が開催され、ミルクファームHARUも「手作りアイス」や牛乳・乳製品のPRにあたった。

両日共に好天に恵まれ、2日間で80万人の来場があり、多くの方に庄原産生乳を使った「手作りアイス」、牛乳を主原料として作った限定「ミルクシェイク」を販

売頂いた。特に「手作りアイス」をお買い求め頂いた方には、両日共に10mを超える長蛇の列で少々お待ちさせる状況にありながら、いやな顔もなく、その美味しさに笑顔で応じられた。

牛乳をしっかりと飲んでくださいね



(MILK ● JAPAN グッズを活用して牛乳愛飲を呼びかける酪農家・住田佑樹さん・中央)

乳製品は健康に良いですよ!



(牛乳・乳製品のPRを通じて、消費者との交流を深める酪農家・砂子拓也さん・写真中央)

PRが最後尾



(手造りアイスを買い求め、写真中央の看板まで長蛇の列)



(RCCラジオに生出演し、来店を呼びかける藏崎哲治店長)



(山陽乳業<株>のスタッフも一緒にステージ上で子ども達と「手作りバター体験」)

庄原市酪農連絡協議会

10/31 食彩館しょうばらゆめさくら・交流ホール～藤岡牧場

待望のバーンミーティング研修 乳量アップに向けて「カウコンフォート」

庄原市酪農連絡協議会(林智行会長)は、兼ねてより会員から要望のあったバーンミーティングを含めた酪農研修会を開催し、関係機関を含め15名が参加した。

講師には成田獣医師(全酪連技術顧問)を招いて「乳量アップをするために」と題した講演と、藤岡牧場に会場を移してのバーンミーティングを開催した。

冒頭、林会長は開会にあたって「夏場の乳量の減少から、いまだに回復していない現状だが、この研修会で学んだ事を一つでも実行できるように頑張ってください」と挨拶された。成田獣医師の研修骨子は次のとおり。

■乳量をアップするには

牛が生きていくための優先順位は

- ①細胞維持 ②体温調整 ③活動
- ④成長 ⑤牛乳生産 ⑥繁殖

どこかに
問題が

の6つを挙げ、「乳量が多い牛は繁殖が悪い」とよく耳にするが、逆に乳量が少ない牛は、繁殖までエネルギーが伝わっていない可能性がある」と指摘。牛は健康だからこそ乳量が出て、繁殖まで繋がることを意識することが大事と説明された。

■藤岡牧場でのバーンミーティング

カウコンフォートの視点から、牛舎内の環境や施設に対して、現場での実例を交えた指摘と、今後の改善に向けた助言が行われた。ボディコンディションスコアからの牛群評価や飼料の切断長等にも助言が加えられ、参加者は自らの牛舎環境を踏まえる中で真剣に説明に聞き入っておられた。

閉会にあたり、和田慎吾副会長は「兼ねてからバーンミーティング研修の開催を希望していた。この度の研修は非常に良かった。直接、現場での研修は身につくことが多いため、今後も機会があれば行いたい」と述べ締めくくった。



■酪農家の喜びって何?

酪農家にとって一番嬉しいことは「バルクの乳量が増えること」であり、生産量の制限要因は様々な問題が関係していると指摘。その1つに、「乾乳期管理の重要性」として、分娩前後の乾物摂取量が重要と強調された。その上で、積極的に食べる牛でなければ、何らかの乳量の制限を受けることから過密飼いの回避や、乾乳に入って1ヶ月後でも乳頭口の25%が開いたままの状態から牛床の管理も重要であると指摘された。また、胎児の栄養要求量として蛋白質の必要性を、飼料給与の具体例を挙げて説明された。

神石地域酪農生産振興協議会

10/28 神石高原町役場広場

来場者からは「良かった。今年はアイスが食べられた」、「このヨーグルトはとても美味しいよね」との言葉が添えられ、乳製品への感心の高さを伺い知ることができた。

会場では、地元特産品の販売や屋台、ゲーム等が行われ、メインステージでは地元小・中学生による吹奏楽、地元文化連盟による神楽やカラオケ大会、豪華景品付きの縄跳大会、ビンゴゲームなど数々の催し物が披露され、来場者を楽しませていた。



当日は雨が心配され、朝の肌寒さからアイス等の売れ行きが心配ではあったが、同協議会のお母さん方の声かけから、多くの方にヨーグルトや手作りアイスをお買い求め頂き、午前中には完売となった。

消費拡大

今年はアイスが食べられた
「さんわふるさとフェア」で